

災害福祉広域支援ネットワーク構築セミナー

岡山派遣を踏まえた
京都DWATの
方向性について
(Kyoto Disaster Welfare Assistance Team)

京都DWAT事務局

京都府DWATの岡山派遣概要

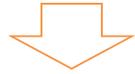
京都府災害派遣福祉チーム(京都DWAT)

- ・ 派遣日: 7月20日～8月13日
- ・ 派遣先: 倉敷市立岡田小学校
- ・ 派遣者: 4人1チーム(6班) 24名
- ・ 内 容: 避難所における福祉的な相談や支援、保健師、JRATチーム合同アセスメント、避難所の環境整備など

“岡山DWATを後方支援することを皆で共有して”

もし、府内で起こったら・・・

- ・現在の登録人数：129名（平成30年10月末現在）
- ・チーム数：8圏域 12チーム



- ・今回の岡山での避難所：3箇所
- ・活動期間：約50日
- ・3箇所×4人×50日＝600人

...全然足りない。。

他府県の皆さんの助けが必要！！

Kyoto Disaster Welfare Assistance Team

府内発災時の課題

- ①DWAT等専門職の必要性の把握
- ②現地コーディネーターの複数配置
- ③連絡体制の充実
- ④名称の違いによる混乱防止
- ⑤保健師との連携強化

気づき：災害時の福祉専門職とは

①DWAT等専門職の必要性の把握

現在、避難所の情報を把握する手段がない

→市町村において、避難者・避難所の状況を適切に把握する体制が必要

(参考)DHEAT研修での健康福祉ニーズ・生活環境項目

・要配慮者:高齢者、要介護認定者、難病患者、人工透析者、在宅酸素療養者、乳幼児、妊産婦

・服薬者:高血圧、糖尿病、向精神薬

・有症状者:咳、発熱、下痢、嘔吐、不眠

・避難所:ライフライン(電気・ガス・水道・通信)、衛生環境(トイレ・冷暖房・換気・清掃・ゴミ)、飲食(食事の供給、飲料水)

※多すぎる?足りない?(認知症、障害者、子どもなど)

☆保健医療福祉調整本部を設置して状況を適確に把握し、専門職を派遣できる仕組み体制を整える。

②現地コーディネーターの複数配置

岡山では、避難所本部(いわゆる現地)にDWAT支援チームや他職種との連携を進めるコーディネーター(調整員、ロジ担)が活動期間中に駐在していたことで活動が円滑に進めることができた。

→人材、配置場所、期間などを考えて複数配置できる仕組みが必要

☆DWAT事務局(府・府社協)はもとより、経営協、市町村社協とも調整して進めて行きたい。

③連絡体制の充実

現地へは、DWAT専用携帯電話を班長に持参してもらったが、チーム員間の連絡、現地の活動状況の伝達などより迅速に、確実に進める方法が求められた。

○群馬DWAT:簡易無線のチーム員への貸与。SNSによる現地の情報発信

●京都DWAT:チーム員は、LINEで連絡(自らの電話を使用)、日報をメールで全チーム員に送付

☆派遣チーム員の情報共有、待機チーム員への情報提供方法を検討(web、SNS、無線など)。

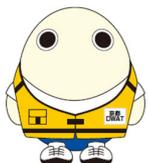
④名称の違いによる混乱防止

現地では、「災害派遣福祉チーム」、「DWAT」、「DCAT」と様々な名称となっていた。

→府内で活動するときは、京都DWAT(京都府災害派遣福祉チーム)として活動できるような仕組みが必要。

☆地域防災計画には記載済。地域の活動で周知を図る。

・群馬DWATさんのようなイメージ



京都
DWAT

京都府イメージキャラ「まゆまる」
のDWATバージョンを作成中

☆これらを他府県応援チームにつけてもらうなど工夫してみたい。

⑤保健師との連携強化

岡山では、保健師のアセスメントシートを使用して保健師と合同アセスメントを実施。保健師さんからは、保健師では気づかない、福祉的な目線での気づきがあり大変ありがたかったとの意見も。

→今度は、保健師との合同アセスメントが主流になることを見据え、保健師アセスメントシートを理解する必要。

☆府総合防災訓練(9月2日)でDWATと保健師の合同アセスメント訓練を実施。今後、それぞれの養成研修に相互参加する等連携を進める。

気づき:災害時の福祉専門職とは その1

岡山派遣を終え、災害時の福祉専門職の役割を整理

- ・総合(なんでも)相談窓口
避難者の声を聞き、課題を把握し対応する。
→ソーシャルワークの基本。課題が小さいうちに対応。
- ・災害時は、避難者全員が要配慮者
要配慮者＝高齢者、障害者...となりがち。
→避難所という非日常生活を送り、この先の生活の不安を抱えた避難者に寄り添って支援できる人こそ、福祉専門職の力。
- ・避難所の環境改善
バリアフリー、生活環境改善の大切さ。
→福祉の基本。当事者本位の支援。

気づき:災害時の福祉専門職とは その2

- ・他職種チームだからできる支援

高齢、障害、児童、社会福祉士など各分野からなるチームだからこそ、現地で幅広い視野で柔軟に支援できる。

岡山では。。。傾聴から気づいてチームで対応

親族による高齢者虐待の対応、児童虐待(ネグレクト)
疑いの対応、子どもとのふれあいによる心のケア

- ・避難生活後を支援

現地地域包括、障害支援事業所等との連携、仮設住宅移転後の訪問支援などを見据えた支援ができるのも福祉職だからできること。